

# あ 翔

あめつちほしそらやまかはみねたに  
くもきりむろこけひといぬうへすゑ  
アメツチホシソラヤマカハミネタニ  
クモキリムロコケヒトイヌウヘスエ  
天地星空山川峰谷雲霧室苔人犬上末  
安以宇衣於加幾久計己左之寸世曾太  
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ0123456789,!.?\*

| 36Q / 48H

或曇った冬の日暮である。私  
は横須賀発上り二等客車の隅  
に腰を下して、ぼんやり発車  
の笛を待っていた。とうに電

| 19Q / 28H

或曇った冬の日暮である。私は横須賀発上り  
二等客車の隅に腰を下して、ぼんやり発車の  
笛を待っていた。とうに電燈のついた客車の  
中には、珍らしく私の外に一人も乗客はいな  
かった。外を覗くと、うす暗いプラットフォーム  
オムにも、今日は珍しく見送りの人影さえ跡  
を絶って、唯、檻に入れられた小犬が一匹、  
時々悲しそうに、吠え立てていた。これらは

| 15Q / 22H

或曇った冬の日暮である。私は横須賀発上り二等客  
車の隅に腰を下して、ぼんやり発車の笛を待ってい  
た。とうに電燈のついた客車の中には、珍らしく私  
の外に一人も乗客はいなかった。外を覗くと、うす  
暗いプラットフォームオムにも、今日は珍しく見送りの  
人影さえ跡を絶って、唯、檻に入れられた小犬が一  
匹、時々悲しそうに、吠え立てていた。これらはそ  
の時の私の心もちと、不思議な位似つかわしい景色

| 28Q / 36H

或曇った冬の日暮である。私は横須  
賀発上り二等客車の隅に腰を下して、  
ぼんやり発車の笛を待っていた。と

| 18Q / 23H

或曇った冬の日暮である。私は横須賀発上り二等客車の  
隅に腰を下して、ぼんやり発車の笛を待っていた。とう  
に電燈のついた客車の中には、珍らしく私の外に一人も  
乗客はいなかった。外を覗くと、うす暗いプラットフォ  
オムにも、今日は珍しく見送りの人影さえ跡を絶って、  
唯、檻に入れられた小犬が一匹、時々悲しそうに、吠え  
立てていた。これらはその時の私の心もちと、不思議な

| 15Q / 18H

或曇った冬の日暮である。私は  
横須賀発上り二等客車の隅に腰  
を下して、ぼんやり発車の笛を  
待っていた。とうに電燈のつい  
た客車の中には、珍らしく私の  
外に一人も乗客はいなかった。  
外を覗くと、うす暗いプラット  
フォオムにも、今日は珍しく見  
送りの人影さえ跡を絶って、唯、  
檻に入れられた小犬が一匹、  
時々悲しそうに、吠え立ててい